

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7回 相模原市地域交通活性化協議会		
事務局 (担当課)		まちづくり推進部 交通政策課 電話042-769-8249 (直通)		
開催日時		令和3年9月6日(月) 14時00分～15時00分		
開催場所		ウェブ開催		
出席者	委員	21人(別紙のとおり)		
	事務局	7名		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 開会</p> <p>2 議題 (1) 次期総合都市交通計画(案)について (2) その他</p> <p>3 閉会</p>		

## 議 事 の 要 旨

### (1) 次期総合都市交通計画（案）について

事務局にて資料1及び資料2について説明を行った。

(今委員) 3つの基本理念について、強弱はあるのか。それとも3つ横並びで実現したいということなのか。

(事務局) 個々の施策となると、財政状況や社会情勢に合わせて多少強弱は出てくるかもしれないが、計画上は3つの基本理念は全て、同じトーンで書かせていただいている。

(今委員) 3つの基本理念が同じトーンということであれば、基本理念のうち「過度に車に依存することなく、多様な移動手段を選択できる持続可能な社会」と「賑わいのあるまちづくりを支える交通体系」は成果指標で測ることができるものであるが、「誰もが移動しやすく外出したくなる交通環境」については、外出率の低下という前段の整理もあった中で、外出の促進という観点で指標を設定してはどうか。

また、例えば長い年月をかけて施策を実施していく立地適正化計画などにおいては、実現したい思いをサブタイトルとして記載する自治体も増えてきている。交通だけではなくまちを良くするための計画でもあり、人々に共感してもらうことも重要であると考えため、本計画もサブタイトルを検討してはどうか。

(事務局) 当初、公共交通利用者数を成果指標としてはどうかと検討を進めていたが、現時点でコロナの状況が読めないということもあり、移動量の増減が不透明な中でも、公共交通の利用割合は上げていきたいということで現在の指標を設定させていただいている。サブタイトルについては、いただいたご意見を参考に検討させていただく。

(会長) 反映できるもの、できないものはあるかもしれないが、できる範囲で検討していただくようお願いしたい。

(中島委員) 施策目標2「地域の実情に応じた持続可能な移動手段の確保」について、観光面でも、中山間地域では経済性の観点で公共交通の持続性を確保することが難しく、コミュニティ交通や福祉交通と上手く連携して相乗効果を生み出す取組を国交省とも調整して行った経緯があるため、観光の観点も記載をしてほしい。

また、本計画と関連するかどうかはあるが、相模原市が東京オリンピックにおいて自転車ロードレースのコースとなったこともあり、観光振興を含めて自転車を活用した様々な取組を今後進める中で、地域振興の一環として、基本方針3『賑わいを創出する交通ネットワークの構築』の中に自転車施策を組み込めないか。最後に、パークアンドライドは本計画に関係するのか。

(事務局) 交通空白地だけではなく、観光地も含めて一体となった方策をとって行きたいと考えているため、具体的な施策の記載内容については検討させていただく。また、自転車施策について、本計画においては交通分野としての施策の書きぶりとなっているが、「観光振興計画」や「自転車活用推進計画」といった関連計画とも連携を図っ

て施策を進めていく。パークアンドライドについては、交通結節点の機能強化に向け、市内の交通渋滞対策や公共交通利用促進等に資する取組として掲げている。

(会長) 「自転車活用推進計画」等、既存計画の内容であれば本計画にも書けるであろうし、パークアンドバスライドなどは現時点で書いてある内容もあるため、反映できるものについては検討いただきたい。

(笹野委員) 施策目標2「地域の実情に応じた持続可能な移動手段の確保」における施策「小さな交通」について、社会福祉の面でも、中山間地域を抱えている本市においては、地域における高齢者等の移動手段の確保が根本的な課題となっている。特にボランティアなどによる移動手段の確保については、地域福祉活動の一環としてモデル事業として高齢者の移動支援を行っている。計画を策定して事業を進めていく中では、健康福祉部門の課題との整合を図りつつ、各計画の施策等と連携を図っていただきたい。

(事務局) 交通部門としてこれまで実施してきたコミュニティ交通だけでは救えない小さな需要があるため、次期計画において「小さな交通」という新たな視点を入れさせていただいた。福祉部門のモデル事業の一例として、福祉施設の送迎車の空き時間を活用している取組などがあると承知しており、この取組は少ない経費で実施できること、また、小さな需要に対応できることから有効であると感じている。福祉部門でモデル事業としてやっけていただいているが、事業を検証した上で、交通部門としても連携していきたい。また、小さな需要に対してタクシーも活用しての対応も検討している。ご指摘いただいた点を踏まえ、記載内容は精査させていただく。

(笹野委員) 20年後の将来を見据えた計画の中では、中山間地域における人口減少や地域の偏りといった問題は顕在化する。どうしてもこのような偏った地域に対してお金がかかるということを全市的に理解いただくことも重要であると考え、計画書の中で見えるものとしていただきたい。

(梶田委員) 本計画策定作業の中で、市民ニーズや満足度などを調査しているが、満足度などは数字として分かりやすいため、モニタリング指標として設定してフォローしていくことも考えられる。このあたりの考えをお聞きしたい。

(事務局) 計画の進行管理に記載している5年後の見直し時期などにおいて、交通の動向を見ながら時代に沿った計画となるよう、調査方法を含めて検討させていただく。

(梶田委員) 市民意識調査の実施間隔にもよるため、様々な場面で状況を把握しながら計画の更新を進めていただきたい。

(梶田委員) 上位計画の立地適正化計画において、災害(地すべり、急傾斜、土砂災害、特別警戒等)指定の変更が生じていると思われるが、この影響の有無について確認させていただきたい。

(事務局) そちらも現在進行中とのことであるため、5年後の見直し時期において、確定したものと整合を図り反映していきたい。

(会長) 本日いただいたご意見の中で、サブタイトルについては、検討に時間がかかり、3つの基本理念の内容を一つにまとめるのは難しいが、第IV章に記載している基本理念を、計画書の前段に移動させることについては検討の余地はあるのでは。これも含

めて最終的に事務局にて検討いただきたい。

(事務局) 本日いただいたご意見等を参考に、より良い計画となるよう検討する。場合によっては別途意見照会をさせていただきたい。

(2) その他

(事務局) 来年度以降の会議体について、地域公共交通会議を本協議会の分科会として位置付けたい。

計画書について、今年度末の策定に向けて、庁内で最終調整を行い、パブリックコメントの実施等、策定作業を進めていく。

次回協議会について、来年2月頃に計画書の完成版を報告させていただくとともに、来年度の協議案件、開催スケジュール等を提示させていただく。日時等の詳細については改めてご案内させていただく。

以 上

## 第7回 相模原市地域交通活性化協議会 出欠席名簿

所属・役職	氏名	出欠
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	出席
東海大学 工学部 土木工学科 教授	梶田 佳孝	出席
一般社団法人神奈川県バス協会 常務理事	小堤 健司	出席
神奈川県タクシー協会相模支部 常任理事	大畠 雄作	出席
東日本旅客鉄道株式会社横浜支社 総務部企画室 企画部長	山本 秀裕	出席
東日本旅客鉄道株式会社八王子支社 総務部経営企画室 企画部長	筑井 裕之	出席
小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部交通企画部 課長	山野 泰弘	代理出席
京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 計画管理部 計画担当課長	篠田 貴宏	代理出席
神奈川中央交通株式会社 運輸計画部長	吉野 茂	出席
京王電鉄バス株式会社 取締役運輸営業部長	窪田 洋	出席
富士急バス株式会社 専務取締役	古谷 幸二	出席
国土交通省関東地方整備局 建政部 都市整備課長	今 佐和子	出席
国土交通省関東地方整備局 相武国道事務所 計画課長	山田 寛雄	代理出席
国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官（総務企画担当）	後藤 洋一	出席
神奈川県警察本部 交通部交通規制課 都市交通対策室 副室長	平塚 友幸	代理出席
相模原市自治会連合会 理事	志村 勝美	欠席

相模原商工会議所 事務局長	布施 昭愛	出席
社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 会長	笹野 章央	出席
公益社団法人相模原市観光協会 専務理事	中島 伸幸	出席
公募市民	石月 光子	欠席
公募市民	櫻井 正友	出席
公募市民	高橋 達見	欠席
相模原市 都市建設局 道路部長	渡邊 建太郎	出席
相模原市 都市建設局 まちづくり推進部長	椎橋 薫	出席